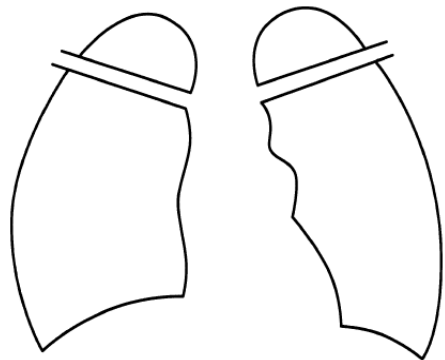
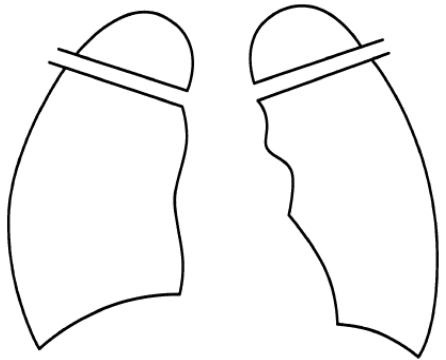


（変更点は下線部）

新	旧
<p>様式第1 身体障害者診断書・意見書（障害用）                      総括表（略）                      視覚障害の状況及び所見～じん臓の機能障害の状況及び所見（略）                      呼吸器の機能障害の状況及び所見                      （該当するものを○でかこむこと）</p> <p>1 身体計測</p> <p>身長                      cm                      体重                      kg</p> <p>2 活動能力の程度</p> <p>ア <u>激しい運動をした時だけ息切れがある。</u></p> <p>イ <u>平坦な道を早足で歩く、あるいは緩やかな上り坂を歩く時に息切れがある。</u></p> <p>ウ <u>息切れがあるので、同年代の人より平坦な道を歩くのが遅い、あるいは平坦な道を自分のペースで歩いている時、息切れのために立ち止まることある。</u></p> <p>エ <u>平坦な道を約100m、あるいは数分歩くと息切れのために立ち止まる。</u></p> <p>オ <u>息切れがひどく家から出られない、あるいは衣服の着替えをする時にも息切れがある。</u></p> <p>3 胸部エックス線写真所見（      年      月      日）</p> <p>ア 胸膜癒着（無・軽度・中等度・高度）</p> <p>イ 気腫化（無・軽度・中等度・高度）</p> <p>ウ 線維化（無・軽度・中等度・高度）</p> <p>エ 不透明肺（無・軽度・中等度・高度）</p> <p>オ 胸郭変形（無・軽度・中等度・高度）</p> <p>カ 心・縦隔の変形（無・軽度・中等度・高度）</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>4 換気機能（      年      月      日）</p> <p>ア 予測肺活量      □ . □ □ L（実測肺活量      □ . □ □ L）</p> <p>イ 1秒量      □ . □ □ L（実測努力肺活量      □ . □ □ L）</p> <p>ウ 予測肺活量1秒率 □ □ . □ % <math>\left( = \frac{イ}{ア} \times 100 \right)</math></p> <p>（アについては、<u>下記の予測式を使用して算出</u>すること。）</p>	<p>様式第1 身体障害者診断書・意見書（障害用）                      総括表（略）                      視覚障害の状況及び所見～じん臓の機能障害の状況及び所見（略）                      呼吸器の機能障害の状況及び所見                      （該当するものを○でかこむこと）</p> <p>1 身体計測</p> <p>身長                      cm                      体重                      kg</p> <p>2 活動能力の程度</p> <p>ア <u>階段を人並みの速さでのぼれないが、ゆっくりならのぼれる。</u></p> <p>イ <u>階段をゆっくりでものぼれないが、途中休みながらならのぼれる。</u></p> <p>ウ <u>人並みの速さで歩くと息苦しくなるが、ゆっくりなら歩ける。</u></p> <p>エ <u>ゆっくりでも少し歩くと息切れがする。</u></p> <p>オ <u>息苦しくて身のまわりのこともできない。</u></p> <p>3 胸部エックス線写真所見（      年      月      日）</p> <p>ア 胸膜癒着（無・軽度・中等度・高度）</p> <p>イ 気腫化（無・軽度・中等度・高度）</p> <p>ウ 線維化（無・軽度・中等度・高度）</p> <p>エ 不透明肺（無・軽度・中等度・高度）</p> <p>オ 胸郭変形（無・軽度・中等度・高度）</p> <p>カ 心・縦隔の変形（無・軽度・中等度・高度）</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>4 換気機能（      年      月      日）</p> <p>ア 予測肺活量                      ml</p> <p>イ 1秒量                      ml</p> <p>ウ 予測肺活量1秒率      % <math>\left( = \frac{イ}{ア} \times 100 \right)</math></p> <p>（ア・ウについては、<u>次のノモグラムを使用</u>すること。）</p>

肺活量予測式 (L)

男性  $0.045 \times \text{身長(cm)} - 0.023 \times \text{年齢(歳)} - 2.258$

女性  $0.032 \times \text{身長(cm)} - 0.018 \times \text{年齢(歳)} - 1.178$

(予測式の適応年齢は男性18-91歳、女性18-95歳であり、適応年齢範囲外の症例には使用しないこと。)

5 動脈血ガス ( 年 月 日)

ア O<sub>2</sub> 分圧 : □□□ ・ □ Torr

イ CO<sub>2</sub>分圧 : □□□ ・ □ Torr

ウ pH : □ ・ □□

エ 採血より分析までに時間を要した場合 □ □ 時間 □ □ 分

オ 耳朶血を用いた場合 : [ ]

6 その他の臨床所見

(削除)

(新規)

5 動脈血ガス ( 年 月 日)

ア O<sub>2</sub> 分圧 : □□□ ・ □ Torr

イ CO<sub>2</sub>分圧 : □□□ ・ □ Torr

ウ pH : □ ・ □□

エ 採血より分析までに時間を要した場合 □ □ 時間 □ □ 分

オ 耳朶血を用いた場合 : [ ]

6 その他の臨床所見

ノモグラムの使い方

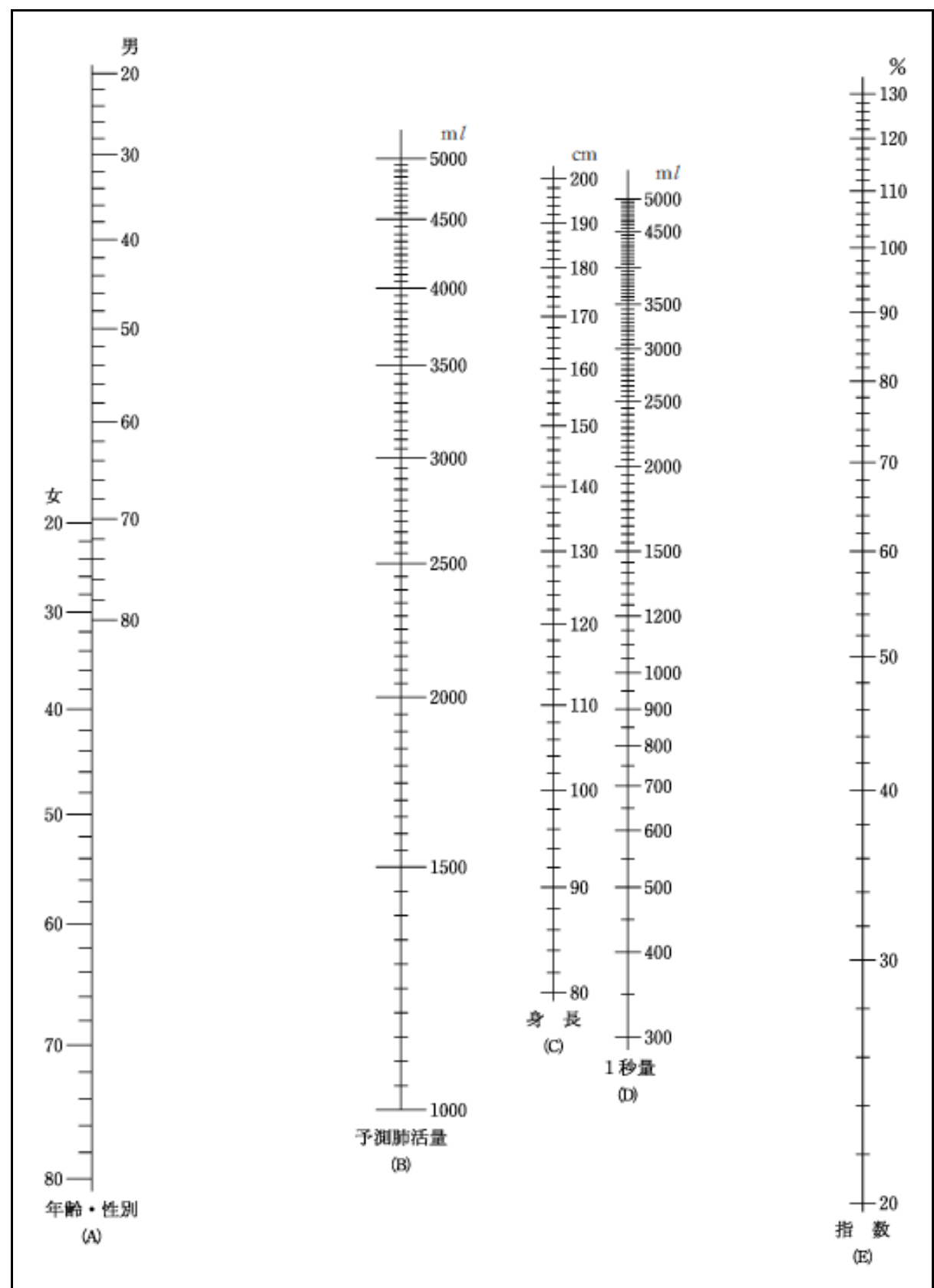
1 (A)と(C)から、(B)上にBaldwinの予測式による予測肺活量が得られる。

(B)と(D)とから(E)上に予測肺活量に対する1秒率が得られる。

2 (D)を1秒量の代わりに実測肺活量とすれば、(B)と(D)とから(E)上にパーセント肺活量が得られる。

3 (B)に実測肺活量を代入すれば、(B)と(D)とから(E)上に通常の1秒率が得られる。

(削除)



ぼうこう又は直腸の機能障害の状況及び所見～ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能障害の状況及び所見 (13歳未満用) (略)

ぼうこう又は直腸の機能障害の状況及び所見～ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能障害の状況及び所見 (13歳未満用) (略)

肝臓の機能障害の状態及び所見

1 肝臓機能障害の重症度

	検査日 (第1回)		検査日 (第2回)	
	年 月 日		年 月 日	
	状態	点数	状態	点数
肝性脳症	なし・I・II III・IV・V		なし・I・II III・IV・V	
腹水	なし・軽度 中程度以上 概ね 0		なし・軽度 中程度以上 概ね 0	
血清アルブミン値	g/dℓ		g/dℓ	
プロトロンビン時間	%		%	
血清総ビリルビン値	mg/dℓ		mg/dℓ	

合計点数	点	点
<u>(○で囲む)</u>	5~6点・7~9点・10点以上	5~6点・7~9点・10点以上
<u>肝性脳症又は腹水の項目を 含む3項目以上における 2点以上の有無</u>	有・無	有・無

注1 90日以上180日以内の間隔において実施した連続する2回の診断・検査結果を記入すること。  
注2 点数は、Child-Pugh分類による点数を記入すること。

<Child-Pugh分類>

	1点	2点	3点
肝性脳症	なし	軽度 (I・II)	昏睡 (III以上)
腹水	なし	軽度	中程度以上
血清アルブミン値	3.5g/dℓ超	2.8~3.5g/dℓ	2.8g/dℓ未満
プロトロンビン時間	70%超	40~70%	40%未満
血清総ビリルビン値	2.0mg/dℓ未満	2.0~3.0mg/dℓ	3.0mg/dℓ超

注3 肝性脳症の昏睡度分類は、犬山シンポジウム (1981年) による。  
注4 腹水は、原則として超音波検査、体重の増減、穿刺による排出量を勘案して見込まれる量が概ね1ℓ以上を軽度、3ℓ以上を中程度以上とするが、小児等の体重が概ね40kg以下の者については、薬剤によるコントロールが可能なものを軽度、薬剤によってコントロールできないものを中程度以上とする。

2 障害の変動に関する因子

	第1回検査	第2回検査
180日以上アルコールを 摂取していない	○・×	○・×
改善の可能性のある 積極的治療を実施	○・×	○・×

3 肝臓移植

肝臓移植の実施	有・無	実施年月日	年 月 日
抗免疫療法の実施	有・無		

注5 肝臓移植を行った者であって、抗免疫療法を実施している者は、1、2、4の記載は省略可能である。

肝臓の機能障害の状態及び所見

1 肝臓機能障害の重症度

	検査日 (第1回)		検査日 (第2回)	
	年 月 日		年 月 日	
	状態	点数	状態	点数
肝性脳症	なし・I・II III・IV・V		なし・I・II III・IV・V	
腹水	なし・軽度 中程度以上 概ね 0		なし・軽度 中程度以上 概ね 0	
血清アルブミン値	g/dℓ		g/dℓ	
プロトロンビン時間	%		%	
血清総ビリルビン値	mg/dℓ		mg/dℓ	

合計点数	点	点
<u>3点項目の有無</u> <u>(血清アルブミン値、プロトロンビン 時間、血清総ビリルビン値)</u>	有・無	有・無

注1 90日以上180日以内の間隔において実施した連続する2回の診断・検査結果を記入すること。  
注2 点数は、Child-Pugh分類による点数を記入すること。

<Child-Pugh分類>

	1点	2点	3点
肝性脳症	なし	軽度 (I・II)	昏睡 (III以上)
腹水	なし	軽度	中程度以上
血清アルブミン値	3.5g/dℓ超	2.8~3.5g/dℓ	2.8g/dℓ未満
プロトロンビン時間	70%超	40~70%	40%未満
血清総ビリルビン値	2.0mg/dℓ未満	2.0~3.0mg/dℓ	3.0mg/dℓ超

注3 肝性脳症の昏睡度分類は、犬山シンポジウム (1981年) による。  
注4 腹水は、原則として超音波検査、体重の増減、穿刺による排出量を勘案して見込まれる量が概ね1ℓ以上を軽度、3ℓ以上を中程度以上とするが、小児等の体重が概ね40kg以下の者については、薬剤によるコントロールが可能なものを軽度、薬剤によってコントロールできないものを中程度以上とする。

2 障害の変動に関する因子

	第1回検査	第2回検査
180日以上アルコールを 摂取していない	○・×	○・×
改善の可能性のある 積極的治療を実施	○・×	○・×

3 肝臓移植

肝臓移植の実施	有・無	実施年月日	年 月 日
抗免疫療法の実施	有・無		

注5 肝臓移植を行った者であって、抗免疫療法を実施している者は、1、2、4の記載は省略可能である。

4 補完的な肝機能診断、症状に影響する病歴、日常生活活動の制限

補完的な肝機能診断	血清総ビリルビン値5.0mg/dℓ以上	有 ・ 無
	検査日 年 月 日	
	血中アンモニア濃度150μg/dℓ以上	有 ・ 無
検査日 年 月 日		
補完的な肝機能診断	血小板数50,000/mm <sup>3</sup> 以下	有 ・ 無
	検査日 年 月 日	
症状に影響する病歴	原発性肝がん治療の既往	有 ・ 無
	確定診断日 年 月 日	
	特発性細菌性腹膜炎治療の既往	有 ・ 無
	確定診断日 年 月 日	
	胃食道静脈瘤治療の既往	有 ・ 無
	確定診断日 年 月 日	
現在のB型肝炎又はC型肝炎ウイルスの持続的感染	有 ・ 無	
最終確認日 年 月 日		
日常生活活動の制限	1日1時間以上の安静臥床を必要とするほどの強い倦怠感及び易疲労感が月7日以上ある	有 ・ 無
	1日に2回以上の嘔吐あるいは30分以上の嘔気が月に7日以上ある	有 ・ 無
	有痛性筋けいれんが1日に1回以上ある	有 ・ 無

該当個数	個
補完的な肝機能診断又は症状に影響する病歴の有無	有 ・ 無

4 補完的な肝機能診断、症状に影響する病歴、日常生活活動の制限

補完的な肝機能診断	血清総ビリルビン値5.0mg/dℓ以上	有 ・ 無
	検査日 年 月 日	
	血中アンモニア濃度150μg/dℓ以上	有 ・ 無
検査日 年 月 日		
補完的な肝機能診断	血小板数50,000/mm <sup>3</sup> 以下	有 ・ 無
	検査日 年 月 日	
症状に影響する病歴	原発性肝がん治療の既往	有 ・ 無
	確定診断日 年 月 日	
	特発性細菌性腹膜炎治療の既往	有 ・ 無
	確定診断日 年 月 日	
	胃食道静脈瘤治療の既往	有 ・ 無
	確定診断日 年 月 日	
現在のB型肝炎又はC型肝炎ウイルスの持続的感染	有 ・ 無	
最終確認日 年 月 日		
日常生活活動の制限	1日1時間以上の安静臥床を必要とするほどの強い倦怠感及び易疲労感が月7日以上ある	有 ・ 無
	1日に2回以上の嘔吐あるいは30分以上の嘔気が月に7日以上ある	有 ・ 無
	有痛性筋けいれんが1日に1回以上ある	有 ・ 無

該当個数	個
補完的な肝機能診断又は症状に影響する病歴の有無	有 ・ 無